

令和4年度第2回総合教育会議 議事録

1 開催日時

令和4年8月23日(火) 13:15～14:45

2 出席者

- (1) 構成員
- | | |
|------|-------|
| 市長 | 園田 裕史 |
| 教育長 | 遠藤 雅己 |
| 教育委員 | 佐古 順子 |
| 教育委員 | 中嶋 剛 |
| 教育委員 | 前田 愛 |
| 教育委員 | 船橋 修一 |
| 教育委員 | 朝長 昭光 |
- (2) 説明者
- | | |
|---------|--------|
| 教育政策監 | 西村 一孔 |
| 教育次長 | 川下 隆治 |
| こども未来部長 | 山中 さと子 |
| 教育総務課長 | 児玉 英輝 |
| 学校教育課長 | 堺 邦寿 |
| こども政策課長 | 内野 一嗣 |
- (3) 事務局
- | | |
|--------|--------|
| 企画政策部長 | 渡邊 真一郎 |
| 企画政策課長 | 石山 光昭 |

3 協議

- (1) 市民満足度調査(教育関係)の結果について
- (2) 「未来へつなぐ学校教育プロジェクト」の進捗報告について

4 その他

5 閉会

[資料]

- (1) 市民満足度調査関連資料
 - (NO.1) 市民満足度調査概要抜粋
 - (NO.2) 市民満足度5か年度比較
 - (NO.3) 自由意見抜粋
- (2) 「未来へつなぐ学校教育プロジェクト」関連資料
 - (資料1) 「ミライへつなぐ学校教育プロジェクト」推進組織図
 - (資料2～6) 大村市教育委員会発行「ミライへON」

企画政策部長 渡邊 真一郎

定刻となりましたので、ただ今から令和4年度第2回総合教育会議を開催いたします。本日、司会を務めます大村市企画政策部の渡邊でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは会議に入ります前に、お手元の資料のご確認をお願いいたします。配布しております資料は、会次第、出席者名簿、配席図、市民満足度調査関連資料、NO. 1「市民満足度調査概要抜粋」NO. 2「市民満足度5か年度比較」NO. 3「自由意見抜粋」をつけさせていただいております。次に「未来へつなぐ学校教育プロジェクト」関連資料としまして、資料1「ミライへつなぐ学校教育プロジェクト」推進組織図、資料2～6大村市教育委員会発行「ミライへON」、また市民満足度調査の報告書を配布しております。以上でございますが、資料の不足等ございませんでしょうか。それでは、会次第に沿って進めてまいります。開会に当たりまして、大村市長、園田裕史がご挨拶を申し上げます。

大村市長 園田 裕史

皆さんこんにちは。改めまして令和4年度第2回総合教育会議に、大変お忙しい中このようにたくさんお集りいただきまして、誠にありがとうございます。今日も活発な議論をしていきたいと思っております。改めてですが、この大村市総合教育会議は、地方教育行政の組織および運営に関する法律が変わった後に、この総合教育会議という制度が始まったのですが、これだけ年に4回、活発な議論を定期的に開催している自治体というのは、あまり聞きませんし、そして何より今日もこんなにたくさんの傍聴に記者さん、市議会議員の皆さんにお越しいただいていると。これも市長会などで色々な市長さんと話をするのですが、こんなことはありません。本当にありがとうございます。そういった中で令和4年度も半分が過ぎたところでございますが、本当に嬉しい話題が続いております。ひとつは昨日から皆さんのご自宅にも

市政だよりも配布されている頃だと思いますが、その最終ページぐらいにいつも大村市内の子どもたちが、九州大会や全国大会に行ってきますということで写真を掲載しております。これは8月末に発行している分なので、7月中のものだと思いますが、ページに載りきれないくらいにたくさん子どもたちが毎日のように九州大会、全国大会に行ってくるという話をしてくれます。8月もたくさん来ていますので、たぶん来月号も、そういった写真がたくさん載ると思います。自分たちが小学校、中学校の時は考えられないような子どもたちの活躍があります。そんな中でも昨日、大村工業高校ソフトボール部が四国のインターハイで三連覇、インターハイ優勝日本一、春の選抜に続いて二冠を達成です。大村工業高校の子たちは国体まで合わせて3冠を取るんだと言っていましたので、まずは有言実行で二つ目を取ったということです。さらに大村工業高校バレー部の2年生、三城小学校、大村中学校、現在大村工業高校の2年の土井優太君がアンダー18の日本代表に選ばれて、同じく代表コーチとして朝長監督も召集をされています。このアンダー18の日本代表がアジア大会で3連覇ということで、アジアでチャンピオンになっています。土井君も2年生ながらスタメンでアタッカーとして出ています。そして実は、四国のインターハイでは川棚高校に郡中学校から進学をした田中芹菜さんがホッケーで全国三位になっています。また、郡中学校から鳥栖高校に進学した須田宝君がレスリングで全国二位、こちらは悔しい二位だと思います。日本一になる実力があって、ずっと日本一になっていた彼が午後から来ます。また文化面でも先般、大村高等学校の尾崎さんがアナウンス部門で優秀賞を、そして福岡の精華女子に進学をした楠本さんが吹奏学部で全国吹奏楽コンクールに精華女子として出場をします。さらに郡中学校から大分東明に進学した村山丈君がラグビーで日本代表の候補として最後の花園に向けて練習をしています。本当に多くの

子どもたちが、県内・県外でチャレンジをして、さらに優秀な成績を収めているということ。何より嬉しいことが須田君も楠本さんも福岡や佐賀に進学をしているのに必ず市長室に報告に来てくれます。中学校からずっとです。こういった子どもたちが令和4年度から新たに創設をした給付型の奨学金というものにチャレンジしてもらえれば非常に嬉しいです、そういった事例が積み重なっていくとさらに下の子どもたちが自分たちにも出来るかもしれないと夢をもって歩んでくれるのではないかなと思っております。そういった仕組みを構築出来ていることも教育委員の皆さんの議論を重ねて新たな政策を立案していただいているお陰だと思っておりますので、本当にありがとうございます。そういった中で今日は市民満足度調査、そして一連のミライへつなぐ学校プロジェクトということで今の進捗状況を、一旦、皆さんで共有してこの内容をさらにスケジュールに沿って実りあるものに進めていき、その部分を共有して参りたいと思っております。まだまだコロナ禍で色々な形で心配事が続きますけれども、特に朝長先生をはじめ医療、福祉、教育の現場で最前線で頑張っている皆さんに感謝をしながら、さらに二学期が始まっていきますので、学校教育または保育の現場で感染症が広がらないようにということに注意しながら進めていきたいと思っております。

最後になりますが、色々なご意見があるなか、先般8月1日、2日、3日の夏越祭りを三年ぶりに本格的に開催をさせていただきました。連日、厳しい意見も市役所に届きましたが、結果的に大盛況のうちに終わりましたし、それによる感染症の広がり影響というものは特に感じられないというところでもございました。当日も九時までに時間短縮をして、総踊りも実施しましたがけれども十時にはぴしゃっと駅前が静けさを取り戻していました。完璧とは言えませんが、飲食ブースでの飲食等々のご協力をいただいております。お祭りを行うことができました。また何より嬉しかったのは、先ほどか

ら申しています九州大会、全国大会に出場する子どもたちが来た時に、夏越祭りに行ったねと聞いたところ、行きませんでしたと言う子どもがいました。行ったという子もいましたが、行きませんでしたという子もいました。なんで行かなかったと、と聞いたら自分にとっては、この九州大会、全国大会が夏越祭りなんだと。夏越祭り以上に楽しみにしているから、夏越に行って感染したら全国大会に行けなくなってしまうから行ってないと。来年は普通にお祭りできたら良いですねと、子どもが言っていました。本当に子どもが自分で考えてそういった行く、行かないを選択していました。自分にとって全国大会に行くことが大事だという判断ができているということに感動しましたし、我々大人がどうかすると、子どもがこうなったらどうするんだということを言いますが、子どもが自分で判断をしている。自分の中でこっちが大事なんだということで行かなかった。家で花火を見たということで、自分で堂々と語っていました。本当に素晴らしいなと思いましたが、考えさせられるなど感じた次第です。少し長くなりましたが、色々な形で色々な動きがこの夏にありましたので、その辺りを含めて大村の子どもたちが輝くように、ぜひ皆さんから忌憚のないご意見を本日も頂戴したいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。いつも本当にありがとうございます。

企画政策部長 渡邊 真一郎

ありがとうございました。それでは、次第「3. 協議」に移ります。ここからの進行は、大村市総合教育会議運営要領第3条の規定により市長が行います。園田市長、よろしく願いいたします。

大村市長 園田 裕史

それでは協議に入ります。まず、協議事項(1)「市民満足度調査の教育関係の結果について」でございます。資料は一応全部お渡しをしておりますが、ここでは教育関連のということで協議をしたいと思っております。事務局から説明をお願いします。

企画政策課長 石山 光昭

企画政策課の石山と申します。よろしくお願いたします。着座にて説明をさせていただきます。

資料は先日配布しております、右上に令和4年度第2回総合教育会議資料NO.1 市民満足度調査概要抜粋と記載されています、こちらの資料を用いて説明いたします。

表紙1ページ目、第1章調査概要です。1番、調査目的は、大村市で策定している第5次大村市総合計画の進捗管理を行うとともに、まちづくりに関する市民のニーズを把握するために実施をしております。

2番目の調査実施期間は、毎年4月末から5月中旬にかけて実施しております。

3番目の調査対象は、無作為に市内在住の方、3,000人を抽出しております。

5番目の調査方法ですが、郵送により3,000人にアンケートを送付しております。昨年から回答率を上げるために、インターネット、スマホでも回答できるようにしております。

6番の配布回収結果として、各地区の回収結果をそれぞれに記載しております。全体では48.3%ということで、過去5年間で最も高い回答率になっています。

一枚目をめくっていただいて、下の方には31ページと記載しています。5.各政策に関する満足度と記載しています。政策に関する満足度について、「男女別」「年代別」「地域別」に記載をしております。その中で教育に関するものを抜粋いたします。まず初めに、政策1.「子育てしやすいまちづくり」について記載しております。一番左のオレンジ部分が「満足」、薄いオレンジが「やや満足」という形でグラフを作っております。この「満足」と「やや満足」で見えていきますと、男女別では、「男性」の方が若干ですが満足度が高いです。下の段の年代別で見ますと「10代」これは18歳以上の調査ですので、18歳、19歳の満足度がかなり高い傾向で、続いて「30代、50代」の満足度が高いということになります。地域別では

鈴田地区の満足度が高く、続いて福重地区、松原地区の順に高い傾向にあります。この表で年代別を見ていただきたいのですが、逆に不満の部分を軸にしてみますと、一番右の青色が「不満」水色の部分が「やや不満」でこの二つを合わせて「不満度」としております。ここを見ますとやはり子育て世代の20代、特に30代の不満度が高くなっています。

次のページをお願いします。32ページになります。政策2.「豊かな学力と生きる力を育む教育の充実」でございます。こちらは先ほどの「子育てしやすい街づくり」に比べて、満足度は39.1%となっております。先ほどの政策の満足度では、47.1%ですので、先ほどと比べますと満足度が低くなっております。逆に不満度は10.7%と高い数値になっております。特に不満度につきましては、年代別を見ていただきますとおり、30代、40代の不満度の方が高いというのが分かります。

続きまして33ページをお願いします。政策3.「文化の振興と生涯学習の充実」についてです。満足度は49.5%となっており、ほかの政策と比較しても高い数字です。不満度についても6.3%と、こちらもほかの政策と比較して低い数字となっています。年代別で見ると、年齢が高くなるほど、満足度が下がり、不満度が上がっているのが分かります。

次の34ページをお願いします。政策4.「国際・地域間交流の推進」についてです。満足度は24.3%と、ほかの政策と比べて非常に低い数字となっています。不満度については、9.5%で先ほどの政策2.「豊かな学力と生きる力を育む教育の充実」よりは低いですが、全体としては、ほかの政策と比較して高い数字となっています。

次のページをお願いします。こちらには「基本目標1 人を育むまち」の政策評価経年比較というものを記載しております。青丸が今回の調査、赤丸が昨年の調査となります。昨年と今年を比較

してどうなっているのかを示しています。図で見させていただきますとおり、一番右上の「子育てしやすいまちづくり」「豊かな学力と生きる力を育む教育の充実」この二つは、満足度指数、重要度ともにポイントが増加しています。逆に「文化の振興と生涯学習の充実」と「国際・地域間交流の推進」の重要度はともに減少している状況です。

次のページをお願いします。A3横の資料をご覧ください。こちらは一番上の段の左側に過去5年間の回答率を記載しています。今回は過去5年間で一番高い回答率48.3%となっており、50%近い回答率となっており。昨年からインターネット、スマホなどで回答できるようにしましたので、右側の年代別を見ていただくと分かりますように、昨年度から10ポイント近く上がっている理由としましては、特に20代の方々、今までは他の年代と比べると10%を切っていたのですが、今回はやはりスマホで簡単に回答出来るようになってきているので、年代別でも13.6%と2倍近く上がったことによって、他も引っ張られる形で回答率が48.3%となり、過去5年間で高い数字となっております。

右上の一番上の表は、市民満足度、政策として全部で24項目あるのですが、こちらの平均値を記載しております。一番上から平成29年度の33.38%、今回は38.74%となり満足度の平均値も過去5年間で一番高い数値となっております。

真ん中の大きな折れ線グラフですが、今回、この折れ線グラフは、本市の24政策を記載しておりますが、この24政策ごとの過去5年間の比較となっております。赤の折れ線グラフで記載しているものが今回の調査で令和3年度、黄色が昨年実施した令和2年度になっており、昨年度と比較をしますと24の政策のうち22の政策において昨年度の満足度を上回っています。

そして本日見ていただきたい教育関係の政策ですが、政策1「子育てしやすいまちづくり」、2「豊

かな学力と生きる力を育む教育の充実」、3「文化の振興と生涯学習の充実」、4「国際・地域間交流の推進」となります。まず1、2、4については、過去5年間で一番高い満足度となっております。ただし3番「文化の振興と生涯学習の充実」については、49.5%と過去5年間では3番目となっておりますが、昨年度は49.6%ということではほぼほぼ去年と同じです。令和元年度が56.1%と突出しておりますが、これは令和元年にミライON図書館が開業したことにより、市民満足度が跳ね上がったのではないかなと推察をしております。参考までに下の方に全体の満足度を記載しており、その中で上位4番目には、政策3「文化の振興と生涯学習の充実」が満足度としては上位にきております。逆にワーストですが、満足度が低いものに、政策4「国際・地域間交流の推進」が入っております。

次のページをお願いします。次のページは自由意見になります。大村市のまちづくり、もしくは市役所の運営にご意見をいただいております。この中で子育て支援、教育関係、その他に関連するものを抜粋して分けて掲載しております。

まず、自由意見で私の方からいくつか紹介させていただきます。1ページ目の3番、子育ての助成などに力を入れていただきたい。5番、子育て支援をもっと手厚くしていただきたい。9番、子ども医療費を全年齢現物給付にしてほしい。これは昨年度も同様な意見がありました。次のページをお願いします。15番、保育園を増やしてほしい。子どもが預けられない、といった意見があげられております。次のページの22番、保育料が高い、雨の日でも遊べる施設を増やしてほしいなどの意見がありました。子育て支援の意見については、20代、30代の女性の意見が多かったです。

続きまして4ページの教育環境等の意見です。1番、学校が狭い、老朽化が心配、高校の数も少なく、大学もない。3番、4番には教師の時間外

の仕事が多すぎることについての意見が書かれています。次のページの8番、黒丸付近にもう一つ小学校が必要などの意見がありました。この教育環境については、40代の意見が多かったです。最後のページは、その他の意見です。全体を通して子どもたちの通学に関する意見が多かったです。特に通学路の整備を求める意見がありました。その他には、子どもの遊べる場所、公園の整備などを求める意見がありました。

説明は以上でございますが、こちらのアンケート結果につきましては、市のホームページ上で既に市民向けに公表しております。説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございました。お手元の資料は教育関係の部分の抜粋ですが、もう一つ添付している報告書は全部のアンケートについてのものがございます。自由記述も全部書いてあります。一部、個人名が入ったりしているものが3件ぐらいありました。それは要らないと判断したものはその部分だけ削除しておりますが、自由記述はそのままに掲載しています。毎年、胸が痛いなどということを含めて厳しいご意見もいただいております。これは何回も幹部会議の中で全職員に話をしているのですが、これは市民からのラブレターだと思っていて、これを一つ一つ解決していけばさらにより良い市政運営になると思うので、ここにヒントが隠れているので共有をすすめています。若い職員もしっかり読んでくれているみたいで、こういう意見がありましたねと、雑談の中でもこの内容が話題になったりするのでこれは本当に大事ななと思います。全部はまた後でゆっくり読んでいただいて、ここでは教育や子育てについてということで自由意見も含めて抜粋しておりますし、アンケートの数値的なデータを含めて皆さんからご意見を頂戴できればと思います。先ほど、石山課長からもありましたけれども、毎年試行錯誤しながら、回収率、回答率が上がるように取り組んで参

りました。一度、催促のような形でアンケートを出されましたかというような葉書を出したり、インターネットで答えられるようにしたりと実施しました。これも別の会議体で総合開発審議会というものがあるのですが、その中で委員さんからのアイデアとしてあったものでした。そういう形でひとつひとつ改善を進めて回収率も結構上がってきましたので、数値としては10万人規模で3,000人に出して3割の回収があれば信頼性があると言われておりますから、その約4割から5割弱としっかり取っていると思っています。それでは皆さんから自由に何かありましたら、またここを詳しく聞いてみたいということがありましたらよろしく願いします。佐古委員どうぞ。

教育委員 佐古 順子

スマホで回収出来たりして、回収率が高くなっているとありましたが、それは20代だけでしょうか。他の世代も上がっているのでしょうか。

企画政策課長 石山 光昭

全体的に上がっております。特に20代が増えているということです。

大村市長 園田 裕史

しかも今まで20代、30代の方が自由記述の欄に記載をしてというのはあまりいなかったのですが、回答がしやすくなったということを含めて自由記述にしっかりと記載をして下さっている若い世代の皆さんがさらに増えたのかなと思います。

企画政策課長 石山 光昭

自由記述につきましては、スマホの回答が増えたのでかなり増えた印象があります。

教育委員 中嶋 剛

回収率の件ですが、これを見ておりますと地区別で見ているのですが、鈴田地区と西大村地区が低いということで、私は西大村地区に住んでいるのですが、本当に恥ずかしいですね。鈴田地区も34%しか回収出来ていない。何か理由等があるのでしょうか。

企画政策課長 石山 光昭

はい、これは本当に無作為に選んでおりますので、選ばれた方の回答ということで、地域別ではそこまで差は出ないのですが、鈴田地区は配布数が少ないので、ひとりの方がアンケートに答えていただくと率もポンと上がりますので、他の地区に比べると鈴田地区など配布部数の少ない地域であると影響が大きいのかなというところではあります。正直なところその分析というのは分からないところではあります。

教育委員 中嶋 剛

結局、三浦地区は50%を超えて非常に多いですよ。それに対して鈴田地区は34%となっていて、どうしたものかなと思っています。その分析はまだされておられませんね。

企画政策課長 石山 光昭

非常に難しいところでもあります。

教育委員 中嶋 剛

次の質問ですが、A3の用紙のグラフ、表の右上に満足度の平均値を出していますが、平成29年度からあって、令和3年度は38.74%となっています。これは嬉しいことですよ。段階的に上がっていますので、今の市政に対する評価をまあまあ受けているという解釈をして良いのでしょうか。

企画政策課長 石山 光昭

ここで満足することなく、もっと上を目指したいと思います。過去5年間で数値的に上がってきていることは素直に私たちも良かったなと思っています。ただ、やはりまだ38.74%なので、まだ4割なのか、もう4割なのか、我々としては、やはり少しでも1ポイントでも上げていくために頑張っていきたいと思っています。

教育委員 船橋 修一

素朴な質問ですが、このアンケートを出す時に、ベンチマーキングというか、大村市、または園田市長が目指すべき自治体というのがあって、というのが、我々民間の場合はベンチマーキングというものを設定するんですね。あのよう

な企業になりたいとか、あのようなホテルになりたいとか、そういうことを具体的に想定して質問内容を入れているのですが、長崎県内には色々な自治体がありますので、どこかベンチマーキングがあるのかなと思ひまして、名前はあげられなくてもそういうところはあるのでしょうか。

企画政策課長 石山 光昭

市の大きな目標として「行きたい働きたい住み続けたい大村市」があり、今回もアンケートについては、それぞれの所管が実際に行っている政策が市民にとって本当にニーズにあっているかどうか、今の現状を調べるために質問を作っております。例えば新幹線であれば、新幹線が来た場合、将来的に新幹線を使うのか、どういった補助があったら通勤・通学に利用するのか。または町内会でどういった課題を解決したら町内会に入りたいのかというのを各所管でどうしても知りたいことを集約して、そうすると100問ぐらいになるのですが、今回の分の設問になっております。

大村市長：園田 裕史

どちらかということ、船橋委員がおっしゃったように、毎年、毎年アンケートを操作していきますので、ベンチマーキングをして、こういう形でこういうまちづくりを進めていきたいです、というものは10年に1回策定をする総合計画の前期計画・後期計画となっていて、前期計画の冊子概要が出来た時はガイド版として市民全体へ配っていますので、こういうまちを目指しているんですよと市民にお知らせできるひとつの大きな機会であるのは5年に一度あります。それに伴って細かい政策の評価を市民満足度調査の中で毎年重ね、改善を重ねていって、また5年後に後期計画を改定したり付け加えたりして10年後には総合計画も大きく書き直すと思うので、そういったものを参考にしていくことになるのかなと、毎年やっていることなので、どちらかという格納的なものの確認をしていくような作業でこちらをやっているということになります。

教育委員 船橋 修一

実は私がよく聞く言葉なのですが、大村市は人口が増加している唯一の市ですし、大村市は大変注目されている市なんですね。どこの県に行っても大村市ですかとよく聞かれるんですね。逆にこれだけ周りから注目されている自治体なんですけど、意外と市民はそうは思っていないんですね。ギャップが結構あるんですね。だから大村市はベンチマーキングされているという視点が必要だと思います。色々ところで必ず聞かれるのが、なぜ人口が増えているのかということですね。なかなか難しいのですが、そういう観点が必要だと思います。

大村市長 園田 裕史

他に皆さんからありませんでしょうか。

教育委員 朝長 昭光

ちょっとしたことなのですが、自由意見の中で通学路のことで書いてあります。今、私が2週に1回、西大村小学校のところを歩いて池田まで往診に行っているのですが、ちょうど4時頃に行くと下校時の子どもたちとよく会います。重たいランドセルをからってみんな一生懸命に歩いていて、ただし歩道がないし、結構車の量が多いので、他の通学路のことは分かりませんが、なんとなく大丈夫かなと思うことが2、3回はありました。その辺の対策も講じられないといけないのかなと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。西小の前から中鉢鮮魚店のところまでのまっすぐの道ですよ。元々都市計画道路という大きな道路を整備する計画があります。新幹線の裏のところの郡中学校まで抜ける道も都市計画道路で、県の事業として進めています。元々西小の前も都市計画の計画路線だったので、拡幅だったり、もっと言うとも堂川のところからまっすぐ伸ばして植松教会のところまで繋げるという路線だったのですが、そこが30年、40年と計画をただけで一向に工事が始まらな

い。そのうちに新幹線も開業して高架の工事があったので、市としては令和2年度末、令和3年3月までに都市計画道路の見直し決定をして、廃止をする路線などを決めて整理をしました。西小の前は拡幅するという形は取らずに計画道路を廃止するというを決めていますので、あそこが拡幅していくことはありません。ただ、非常にあそこは狭いし、危ないので今出来る対策として歩道を広く取ってカラー化をして安全対策を講じるということは進めています。歩道を広くとって車道を狭くするという事は、車道が狭いものから車を運転される方がスピードに気を付けるという意識になって、スピードが上がらない、そういった効果もあります。ある程度、歩道を確保していくということをしているのですが、狭いんですね。毎年PTAの要望や、地区要望でも特にあの道に入ってくる脇道からの交差点のところに横断歩道や信号機を付けてくださいとか、そういったことができます。横断歩道だったり信号機は警察も絡んでくるので、市だけでは判断できないのですが、今回も9月議会に議会の方へも地区要望やPTA要望からの道路の改善案の予算を計上しています。あの道路については、とにかく市として出来ることを全力でやろうと。例えば色を付けたり、車線を引いて注意を喚起したり、道路に「とまれ」などを書いたり、色々なことをやって、とにかく安全にしていけないといけないなと思っています。出来る限り改善を進めていきたいと思っています。大きな方向性の部分では出来ること出来ないことをある程度整理をして、そのまま計画路線にしていたら、周辺の住民の皆さんに多大なご迷惑をお掛けすることになるので、そこは一旦整理をさせていただいています。

教育委員 中嶋 剛

私も最後は西大村小学校にもおりましたが、私がいる間に事故は1件だけ起きました。それはどこかという、中鉢鮮魚店前の複雑な交差点が5つばかりあるのですが、あそこで朝1件だけあり

ました。ただ朝長先生が仰った中鉢鮮魚店までの道路で起きたことは、私が在任中にはありませんでした。子どもたちが話しながらパッと飛び出すと大変なので、運転者の方がかなり気を付けていただいて、これが事故が少ない要因だろうと思います。確かに仰ったように歩道を付けるというのは難しいだろうと思います。西小の前から線路の前までは歩道があります。線路を超えてもう少し20～30mありますが、先がないので、その部分と先を注意するというのを、学級担任は一生懸命に指導していました。その点は事故が起これなくて良かったと思いました。確かに市長が仰ったように、PTAの要望には必ずあがっています。あそこをどうにか出来ないでしょうかね。

他の件でいいですか。教育関係で満足度調査を見ていたら、A3資料の一番下、満足度の上位5には、4番目に3、「文化の振興と生涯学習の充実」が入っています。ただし満足度下位5の中で2番目に4、「国際・地域間交流の推進」これが非常に下位にある。これが非常に問題だろうと私は思うのですが、ALTも沢山いますけれども、どうしたら交流が出来るのか、これは自由意見の中にも確かあったと思います。この点の考え方をしなければならぬと思います。それと教育関係で上位も下位もあとに入っておりません。満足度の中では17位です。これは32ページにあります。「豊かな学力と生きる力を育む教育の充実」これでは満足度ランキングが13位です。24分の13ですね。真ん中ぐらいですね。総合的な評価としては良くも悪くもないという証拠を示していると考えられますね。

もう一つ申し上げます。自由意見の中の1ページです。1番の下から2行目「こどもセンターおよび市の職員は、愛想がないのか？笑顔で対応してもらおうということがほとんどない。だから行きたくない。」と厳しい意見です。私はこれを読んだ時に、あれっと思いました。それは、先日雨のひどい日に、雨がひどいから少ないだろうというこ

とでマイナポイントの申請にまず電話をしました。そうしたら今は十分空いていますということで、その後の言葉が「今は雨が非常に酷いので、くれぐれも注意して来られてくださいね」と女性の方が仰いました。なんて親切なんだと、だから私はありがとうございます、と思わず言いました。こういう方もいらっしゃるということです。確かに忙しいということで笑顔もあまり作れない職員もいるかも知れません。しかしながら努めて笑顔と言葉は大事ですから市民のためにそういう努力をしていただきたいと思います。受付に2名おられますけれども、あの方たちは本当に愛想が良く対応していただいて、良いなと思っているんですが、そういう点でどうでしょうか。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。山中部長から何かありますか。

こども未来部長 山中 さと子

毎年、ここにこどもセンターが載りませんように思いながら職員一同頑張っているのですが、今年もまたご意見をいただき残念な思いをしているのですが、このようなことを受けてこどもセンターでは、市民の方への対応を向上させようということで、プロジェクトチームを作って昨年度から職員みんなで意見を持ち寄って、どうすれば皆さんがまた相談に来たいと思えるようなセンターに出来るかということを話し合いながら改善を続けています。雰囲気づくりや研修など、色々なことをやっていますので、来年は絶対にならないようにというのが目標で頑張っております。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。本当に山中部長を先頭にプロジェクトチームを作ってということですが、一生懸命頑張っています。こどもセンターにご意見をいただくことがこれまでもありましたし、改善をしているということです。具体的に「こどもセンター」ですから、こども真ん中ということでコンセプトを作って、例えばひな祭り、鯉のぼり、

そういった時期に、こどもセンターの中をみんなで装飾をして、保育園のお遊戯会のような雰囲気を作って、一生懸命になってやっています。私も見に行きましたけれど、職員もやらされ感ではなく、ワイワイ楽しくやりながらということなので、雰囲気は着実に変わってきていると思います。世帯で相談に行かれる方は、相談の内容によっても色々と抱えていらっしゃる方もいるので、そういったところも配慮しながら今後も努力をしていきたいと思います。私がしっかり見ても聞いても頑張ってお組んでくれていると思いますので、ぜひ皆さんも何かある時は立ち寄っていただいて、今は何をしているんでしたっけ。

こども未来部長 山中 さと子

新幹線開業に向けての新幹線の飾りつけをしています。

大村市長 園田 裕史

毎年、シーズンシーズンで色々を変えています。

こども未来部長 山中 さと子

保育園さんにもお願いをしてこどもセンターに保育園での作品を展示させていただいているので、ぜひ遊びに来ていただければと思います。

大村市長 園田 裕史

もう一つ議題がありますので、一点目については、この辺で終了しまして、ちょっと気になることは皆さんで共有するというのが第一の目的です。具体的には自由記述の中にあることを改善して行って、新たに予算が発生するものしないものがありますけれども、予算が発生せずとも改善できることはすぐにやっていきたいと思われ、先ほど船橋委員からもありましたけれども、ホテルでのお客様アンケートみたいな形で、本当にリアルな市民の声だと思っていて改善をしていこうと思います。そうすると一步一步解決していくし、過去にあったもので解決したもので、ここに記述がなくなって満足していただいたということもありますので、そういうふう捉えて、教育部門だけではなく、他の部門もたくさんありますので、

ひとつひとつ重ねていきたいと思っています。ぜひ皆さんにも読んでいただいて、今後の委員会の中でも議論や当局に対する政策・提案に繋げていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは協議事項(2)「未来へつなぐ学校教育プロジェクト」の進捗報告についてでございます。まず、事務局から進捗状況の報告をお願いいたします。

学校教育課長 堺 邦寿

学校教育課の堺でございます。私から「未来へつなぐ学校教育プロジェクト」の進捗状況をご報告いたします。着座にて失礼いたします。お手元に六つの資料を配布しておりますけれども、本資料を用いて説明いたします。

資料1は全体構想及び組織、資料2から6は「ミライへON!」の名称でそれぞれのプロジェクトの取組を保護者向け、または市民向けに紹介しており、市のホームページにおいても公開しております。

それでは資料1をご覧ください。本プロジェクト三つの取組について、目的や今後の予定、組織等について整備し、取組の全体像としてまとめたものでございます。令和4年度の取組予定については、学校規模適正化では調査及び基本方針案の策定、中学校統一型制服については、調査、新標準服案の決定、学習評価の実施については、評価に関する考え方、統一手順の検討、決定、周知を行うこととしています。

次に資料2をご覧ください。これは「ミライへON!」第1号として、プロジェクトの基本的な考え方や各プロジェクトの実施に至った背景と現状、及び取組内容、年次計画について説明いたします。

資料3については、学校規模適正化について全国的な学校規模の現状、適正規模化のための一般的な方法を説明しております。具体的に7月までの学校規模適正化の具体的な取組につきましては、

4月に児童・生徒数の推移など統計データから今後の学校の児童・生徒数の推移確認するなど調査を行っております。同時に4月から5月にかけて黒木小、東大村小、萱瀬小の小規模3校、竹松小、富の原小の大規模2校に対して、それぞれの学校のメリット、デメリットについて学校アンケート調査を行っております。また5月には学校区の確認現地視察を行いました。三城小、中央小、西大村小、福重小、竹松小、富の原小校区の境界のところ、福重地区、黒丸地区、新大村駅周辺の宅地開発状況等の確認を行ったところです。6月から7月にかけては、学校アンケート調査や視察の状況を踏まえて適正規模化の対象地区と方法の検討を行っているところでございます。

次に資料4をご覧ください。ここでは統一型制服について紹介をしておりますが、統一型制服の導入によって実現したいこと、または制服のタイプ等をお知らせし、併せてアンケートフォームの2次元コードも掲載し、アンケート依頼を行ったところです。具体的なこれまでの取組については4月には、昨年度、中学校の校長会において検討会を組織し、協議した内容を整理しました。5月には児童生徒、保護者、教職員対象アンケートの準備を行い6月から7月にかけて、そのアンケートの実施、及び結果集約を行いました。8月上旬に市内小中学校長及び市PTA連合会の代表による第1回検討委員会を実施したところです。

資料5については、中学校統一型制服導入に関するアンケートを行い、その結果をお知らせしたものです。このアンケートにつきましては、6月13日から26日の期間にGoogle FormによるWEB無記名アンケートとし、小学4年生から中学3年生までの児童生徒及びその保護者、小中学校教職員を対象として実施をいたしました。制服導入の形態については、4つございます。①全6中学校男女共通同一の制服にする。②基本は男女共通の同じ形にして、学校ごとに異なる制服にする。③組合せのパターンを複数種類準備し、

個人で選択する。④どちらでもよい。この4つの中から選択するアンケートの方法を取っております。小中学生においては、③個人で選択したいという意向が強くありました。保護者は①の統一、または③の個人選択、小学校の教職員については①の統一、中学校の教職員については②の学校ごとを希望する傾向にありました。制服に重視する項目については、多様な性への対応、価格、活動しやすい機能性、洗濯のしやすさや速乾性、寒暖差への対応等から選択する方法で行いましたけれども、小中学生は毎日着用する者としての視点、保護者はお手入れ、購入者、着用者の視点、教職員は教育、保護者、着用者の視点からの回答が多くありました。意見や提案については、自由記述について実施いたしました。全ての記述内容を確認し、回答を分類しましたが、その中で賛成意見が14%、反対意見が3.2%、参考意見が3.3%、記入なしが82.9%という状況でした。いずれも貴重なご意見、ご提案をいただいておりますので、今後これらの結果を十分に活かして検討委員会等で協議を重ねより良い導入方法を検討していきたいと思っております。

最後に資料6をご覧ください。これは学習評価についてお知らせをした資料でございます。まず、保護者に対して学校ではどのような手順で何を評価しているのか、文科省の資料を活用しながら保護者向けにまとめ、お知らせをしているものです。また裏面になりますが、学習評価の観点の中に、「主体的に取り組む態度」とありますが、この中で評価する「学びに向かう力」については、事例をいくつかあげて家庭でも伸ばせる、いくつかの取組を紹介しています。具体的なこれまでの取組については、4月から5月にかけては学校教育課内において学習評価の考え方、統一手順等の確認、及び検討を行い、6月には第一回の教務主任会、プロジェクトチームとしていますが、それを開催し、事例を元にした評価の在り方等についての研修会を行っております。8月には第2回教務主任

会を開催しまして、本日の午前中にあったのですが、各学校から持ち寄った評価の計画を元に、各学校のズレや捉え方、そういったところを明らかにしながら評価計画をより良くするためにはどうしたら良いのか、協議、検討を行ったところです。今後、本研修内容を元に各学校での具体的な実践を行っていくことにしています。以上で「未来へつなぐ学校教育プロジェクト」の進捗状況の報告を終わります。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございました。教育委員の皆さんも非常に興味、注目を持たれていて、関心の高いこの三つの柱を掲げたプロジェクトですけれども、自由に進捗の確認やご意見等々あればよろしくお願ひします。ちなみに非常に子どもたちも保護者も注目しているところと私も感じています。アンケートが出されて各保護者に配られた際に、たまたま子供会に用事があって遊びにいきましたら、お母さん方から囲まれて、なんで制服を変えるんですかという話で、これこれこうだと説明をしたら、ここでプレゼンされたら納得しなきゃいけないじゃないですかと笑いながら言っていました。自由に意見を書いてくださいねと言いましたので、自由意見のところには書いてくれていると思うのですが、制服が変わることが嫌とかではなくて、それぞれ学校のアイデンティティの部分で、うちはこれなんだというようなことを子どもたちや保護者も言っていたり、そういうことをすごく感じていて関心があるんだなとすごく感じています。また制服の価格差について話すと、それは知りませんでしたということで、それは大きな問題ですねということでしっかりご理解をいただいたり、非常に良い形で、これだけの回答率にも現れているのではないかと感じています。スケジュールについてもきちんとアクションプランとして示してあるので、保護者の皆さんも逆算して自分の子どもの時はこうでというように形をイメージしながら話をされていたので、非常に素晴らしい

形でスタートして進捗しているなど個人的に感じているところです。皆さんからないでしょうか。地域からのご意見や今の段階で感じている事を含めてご意見いただければと思います。

教育委員 中嶋 剛

まずは1ページ目の「ミライへつなぐ学校教育プロジェクト」推進組織図についてです。学校規模の適正化ということでプロジェクトチームを作っているということですが、令和6年に完全に移行するというので、令和4年5年はその調査を実施するとあります。下にはこれこれをやらなければならないということで箇条書きに書いてありますが、現時点でこれをどれだけやったかをお知らせいただきたいのですが。

学校教育課長 堺 邦寿

学校教育課からご説明させていただきます。まず一つ目の「適正化基本方針案及びグランドデザイン案の策定」については、現在、策定しているところです。そのための調査やアンケートについてはこれから行います。二つ目の「実態調査（市内外学校）」となっておりますが、市内の学校については先ほど申し上げました通り大規模校、小規模校について実態調査を行いました。市外の状況については、今予定をしております。現段階としては上の二つ目までを主に進めているところです。以上でございます。

教育委員 中嶋 剛

この有識者会議でのメンバーについては決定していますか。

学校教育課長 堺 邦寿

まだ有識者会議のメンバーについては、決定しておりません。これからどの方にしていただくか等について検討していくことにしています。

教育委員 中嶋 剛

実態調査の中で出てきた一番大きな問題は何でしょうか。

学校教育課長 堺 邦寿

大規模校、小規模校についてそれぞれの学校の

メリット、デメリットを調査したところですが、まず小規模校にメリットがあると思われる事項については、行事等で個々が活躍できる機会や活動スペースが確保できる。また児童、生徒個々の行動を把握することができる。職員の共通理解と共同実践がしやすい。また子育てを軸とした地域との連携が図られる。これが小規模校のメリットとして挙げられることです。次に大規模校のメリットと思われる事項については、職員の出張や外勤、職員が多いことから、それをしやすい部分がある。子どもたちが多くいるので多様な学習形態を取ることができる。また職員の業務負担についても、色々な方策を取ることができる。そういったことがメリットとして挙げられているところです。逆にデメリットの部分ですが、小規模校の学校については、やはり児童数が少ないですので、授業の中でも多様な考え方に触れる機会が少なくなるということがございます。逆に大規模校においては、一学級の児童数が多いので、それぞれひとりひとりの活躍の場が限られてしまうというようなデメリットがあるというふうに挙がってきております。以上でございます。

教育委員 中嶋 剛

基本的に問題を解決するためには、3枚目の真ん中にありますが、「極大規模校の分離」という一つの考え方があります。そうした時に、先ほどの満足度調査でも出てきていましたが、学校を新しく作るということが出てきていました。竹小と富の原小の間に一つ作るということですね。基本的に大村市としての考えとしては、新しい学校は作らないという考えでよろしいでしょうか。

教育政策監 西村 一孔

新しい学校を作るということは、想定しておりません。ただどうしても必要だという話であれば十分に協議する必要があるのですが、今のところは通学の見直しで対応できないかということで考えているところで、ただこれもまだ有識者会議等にもかけていませんので、どういう意見が出てく

るか分からない状況です。

大村市長 園田 裕史

自分としましても、市として市長として考えているのは、新しい学校を新設するという事は考えておりません。財政的にもそうですし、十分な土地の確保などもなかなか困難ではないかなと思っていて、一番は建てないと対応できない状況になるかどうかですが、それはないと判断しているということです。今、その部分も教育長に相談をしてこのプロジェクトをスタートしてもらっています。令和7年に福重小学校が新しく建替えられます。この規模についても先般市議会で説明をしましたが、当初の計画よりも大きく、福重地区の住宅、宅地開発が進んでいたり、車両基地駅が出来ていたり、周辺環境の今後の見通しを立てて福重地区の人口増加を見込んで、教室数の配置であったりを想定して、学校を大きく作ろうとしています。今後、三城小学校、次に中央小学校になります。この三城小学校と中央小学校も割と市の中心部にあるところで、三城小は今子どもが増えていて、逆に中央小は子どもが減っている。隣接には西大村小学校や放虎原小学校もありますから、この辺りをどう考えていくのかということも含めて建替える時に建替える学校の在り方を考えられるように、まずこのプロジェクトでしっかりと現状把握をして、今後の建替えについてはどういふふうに進めていくのが適切なのかということを考えていかなければならないのかなと思います。一番は竹松小学校、富の原小学校、郡中学校、桜が原中学校になってくるかと思いますが、校区変更の希望というのは町内会エリア、学区も絡んできますので、きわめて慎重にしっかり準備をして進めていくことが必要だと思いますので、まずは現状把握ということでプロジェクトを進めさせていただいて、新設ではなくて今後の建替え、改修の中でしっかりと改善ができればと思います。

教育委員 中嶋 剛

市長さんの考え方、分かりました。

大村市長 園田 裕史

他にありませんか。前田委員どうぞ。

教育委員 前田 愛

中学校の統一型制服に関してですが、私は賛成でも反対でもないのですが、今年息子が中学1年生になったのですが、上のお兄ちゃんと6歳離れていますので、久しぶりに学生服を買ったんです。6年前としたらやはり価格が上がっているなと思いました。西大村中学校では、リユース活動をやっている、卒業する際に制服やカバンなど、まだまだ使える状態のものを寄附してくださいということでされていたので、統一型を導入するのであれば、3年間ではボロボロにはならないので、そういうリユース活動もして欲しいなと思いました。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。多分ですが桜中もやっていると思います。学校によってやっているところもあるようですね。この前、桜中に行った時にも保管する部屋があって、転校した子どもたちにそこから選んでもらったりもありました。民間でも「さくらや」と言ってお店前にリユース販売のお店があります。これは保護者の方が半分ボランティアみたいだと思うのですが、経営されていて、非常に広がってきています。そういうところもぜひ使えるように考えていければと思います。今回なぜ統一型の制服にするんだということも、この資料の中にもしっかり書いてありますが、例えば色々な事情で転校したりする時でも、こういった形で対応可能でありますし、非常に良いのかなと思います。また、特に船橋委員も九州教具の中でもジェンダーのことであったり、そういったことが進められていて評価を受けられていますし、そういった考え方を含めて良い機会だと思います。リユースの部分については、進めていってもらいたいなと私も思っています。私も「さくらや」さんに買いに行ったのですが、何百円で買えました。シャツやズボンとかです。非常にありがたいなと思って、そういうところが出てきているというこ

とがとてもありがたいなと。保護者の声から始められたと思うんです。他にありませんか。教育長お願いします。

教育長 遠藤 雅己

この三つの柱は、全部連動しています。後で判ってくると思います。特に中学校では小学校から上がっていった制服の統一型になるという検討。大村市は2030年までの人口増加、その後はどうなるか分かりませんが、水陸機動団の新設や新幹線車両基地周辺の状況などがあります。これは一貫性のものでなくて、第一期でここまでやります、第二期でここまでやります、というような見直しをしていかなければならないと思っています。それが5年スパンや10年スパンになってきます。そこで基本的な考え方は、県内がそうですが学校を無くすということではなく、学校の特徴を活かして学校を残すという方向で今しています。少人数でも残せるような特徴が作られるかが今から先の問題ですし、大規模校については、先ほどから出てきておりますが、新しいところを作って、その半分を利用するのではなくて、周りにある学校で20年、50年、60年、80年で改築計画を推進しています。また長寿命化でリフォームをやっていて、こういうところに移せないかということも考えて、出来るだけ生徒たちや保護者の要望に答えられるよう願って進めていきたいと考えています。これについては、部活動に関しても言えることですが、長崎市では部活動をやりたい学校に中学校は移って良いですよというところもあります。これが成功しているかどうかは分かりませんが、今、自分の中学校区には部活動がないというところで中学校に上がる時に、やりたい学校に移れるということもあって、そうすると、統合型制服にすればお下がりなども貰いやすいなどあります。

最後に一つだけ、アンケートで一番多い意見は、先ほど言ったように子どもたちの制服のお下がりの問題があります。今、お下がりをストックして

いるのに今度、制服が見直しになると使えないじゃないかという意見がたくさん出てきております。それは何とか認めてというようなことで、短期間で2年後にはスパッと切ってやりますけれども、そういうお下がりのもも併用出来るような動きに出来ればと思います。色々な面で有識者を入れて話し合いをしていかなければならないことになっています。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。まもなく時間だということですが、この大きな三つの柱を立ててプロジェクトを進めていくことは、本当に素晴らしいことだと思っています。市議会議員の皆さんも多く進捗状況を聞きたいということでお越しいただいているんだと思います。私も今どうなっているのかなとすごく気になっていたので今後の進捗も見守って順調に進んでいくように教育委員会にお願いをしたいですし、委員の皆さんからも幅広いご意見を、特に地域や現場から、また委員の皆さんの諸般や所感だったり教育委員会の中で届けていただければと思います。

今日は総合教育会議なので、私の考えも最後にお伝えさせていただきたいなと思っています。学校規模の適正化というのは、一期目の市長マニフェストの中に掲げていたのですが、なかなか簡単には出来なくて、動けていなかったことをやっとな遠藤教育長の元で先ほど仰られたことを絡めて動き出しました。ここについては今課題になっている大規模校の校区の課題、小規模校の問題、小規模校については黒木小学校の特別転入制度を松原小学校にも導入して、非常に松原小学校が特色のある学校教育が出来ていますので、教育長からもあったように小規模校であっても何か特色があって、この学校だからこそというものをしっかりと構築していき、小規模校、大規模校の良さを活かしたというところを規模の考え方の中でも同時に協議していただきたいなと思っています。ただそうは言っても、数字の問題、児童数の問題など色々

とあるので、そこについては繰り返しますが、大村市は人口が増えているので、統廃合をすることはなく、学校を全部長寿命化するという計画で今から順次進めていっている中で、上手にご理解をいただきながら少しスライドして、規模が解消されていくということが出来れば一番良いのかなと思っていますが、そんなに簡単には上手くいかないと思っていますので、福重がまず建替わる、三城、中央の考え方をどうしていくのかというところを同時に直近で考えたり、エリアの方も考えていきたいと思っています。

中学校の統一型制服について、学校の制服が変わることは子どもたちや親御さんにとって関心事が高いし、結構注目されていると思います。先般、大村城南高校が自分たちで夏の制服を考えるということで、話を聞いたら生徒会で自分たちでアンケートを取ってこんな制服がいいんだ、あんな制服がいいんだとか、長崎新聞にも取り上げられていましたけれども、子どもたちが自分たちで考え、自分たちで作った夏服だから、満足度も高いし、自分たちの学校に対する思いも強いし、すごく良い取組だなと感じました。工夫もされていました。襟のところが黒く黄ばみやすいので裏にチェック柄を入れてあったり、これは大村工業も一緒ですが、そういう工夫をされていました。生徒さんに直接聞いても、学校の制服を変える、新しいものを取り入れるというのは、みんな関心が高いから良いですよと生徒会の方が言っていました。ここについても制服が変わるというのは、非常に関心が高いことなので、この機会に自分の学校も校章で特色を示すとか、ここにも書いてありますけれども、そこまで繋げてぜひ取組を進めていただきたいなと思っています。

最後は自信を持たせる学校評価の実施ということで、実は別の総合教育会議の時にも話題になったり、大村市の学力状況調査の評価が低いんじゃないかと、よく新聞にも掲載されていたり、市議会でも話題になるのですが、今、教育委員会や現

場の先生方が頑張っていて、そんなに低くはなく、ちょっと平均より低いということで新聞に掲載されていましたけれども、一方でこんな意見がありました。大村から転出された保護者さんがSNSで書かれていたのですが、転出されたところが極めて学力状況調査の高いエリアだったみたいです。そこに引越したけれども、大村の教育が良かったと書いてありました。それはどうしてかということ、学力が高い子たちは一生懸命サポートしてあるのだけれど、なかなかついていけない子たちのサポートがとにかく良くないと。大村は低い子たちのサポートをしっかりとあつたと、だから全体としては確かに平均値は上がらないかもしれないけれども、その方が素晴らしいということに気づいたと書いてありました。学力状況調査の数字というのは、確かに高い子たちが高いエリアで高めていけば平均値は上がりますから、そういう数字が出るのですが、下の子たちをフォロー出来ているかと言えばそうじゃないということを、保護者の方がリアルに書いていました。本当に素晴らしいなと思って、特に教育委員会からも現状を確認する時に点数を上げることが目的ではないんですよと、公教育としてやるべきことを全体を底上げしていくために、ここに力を注いでいますということで回答されていたのですが、本当にそれが保護者に伝わっているのだなと感じながら、保護者の方のSNSを読んだところでした。公教育として重要なのはそういうところだなと思いますし、特に8月の頭から末まで、先般、給付型奨学金の募集をかけていますが、学力だけではなくて、ここに書いてあるように自信を持てる教育評価ならびに一芸に秀でる、こういったことをしっかり大村市の教育として進めていきたいなと改めて感じたところです。教育長からあつたように三つが繋がっていますので、ぜひ委員の皆さんからご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

今日は進捗状況の確認というのが多くて、意見

交換というか確認、共有の方が多かったように思いますけれども、次回3回目の時も色々と協議していきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

協議事項は以上になりますので事務局へ返したいと思います。

企画政策部長 渡邊 真一郎

それでは、次第「4. その他」に移ります。委員の皆さんから何かございますでしょうか。

教育委員 朝長 昭光

教育関係のことではないのですが、コロナに関して大村市医師会の当番医の状況を皆さんに報告します。だいたい夏場は30人から40人ぐらいしか来なくて、冬場は60人ぐらい、インフルエンザが多い時には100人ぐらい来ます。7月24日(日)は123名、31日(日)は139名、8月7日(日)は、ひとつだけの病院では大変だろうと、協力依頼もあつて他の先生が入って192名、11日(祭日)は148名、14日(日)お盆の時は二つの病院が入ったのですが291名、先週は少なかったのですが、そんな感じでかなり大変な状況が続いています。そのうち8月14日、山下外科では134名受診、コロナの検査をしたのは119名で94名と8割近い陽性者でした。また問題は、6時に締め切ったけれども診療が終わったのが9時頃で、その後にハーススと言うシステムに入力をしなければならいんです。それで帰るのが11時とかで、この時は応援の田川先生も入っていたのですが、協力があつてもこのような感じで非常に苦勞しながらやっています。日常診療について私のクリニックを例に説明しますと朝の8時半から10時過ぎまでは電話が鳴りっぱなしで、2回線あるのですが受付が2、3人いても電話に出れないという感じです。ワクチンの予約もあつたり、それに対応しながら診察で終わった患者さんの薬を出したり、お金を計算したり、保険証の確認をしたりしています。また私のクリニックでは3畳ぐらいの外のテントでコロナ疑い

の診察をしているのですが、患者さんが初診の方が多いので電話で、名前、住所、保険証番号を全部聞くのでかなりの時間を要しています。また、車種、車番を聞いて待ってもらって、また看護師が患者さんに電話をして症状やワクチン接種の有無などをハースに登録しなければならない内容などを聞くので時間がかかります。今は朝から10人ぐらい患者さんが来られて、だいたい検査が終わるのが10時くらいです。抗原検査が終わったくらいに診療所に着替えて行くのですが、私は一度で済むのですが職員たちはずっと外にいますのでテント内にクーラーを二つ付けて、扇風機も付けていますが汗びっしょりになりますので、看護師たちは4人一組になって15分ぐらいで交代しながら対応しています。結構みんなバテていて、臨時ボーナスを支給しました。あと、どれぐらいのコロナ陽性患者さんが来ているかという、7月の第3週目が1週間で17人陽性でした。第4週が34人、8月の第1週が28人、8月1日から13日までが54人、8月15、16日は休みだったので第3週は28人ぐらいでした。昨日は7人ぐらいでしたので、だいたいこの2、3週間がピークではないかと思っていて、もう少し頑張ろうと職員にも言っているのです。私もちょっと疲れてしまいましたがやはり睡眠不足になると、防護服を着たりするのも疲れたりするんですね。かなり市民の中には外での診察、待ち時間などの不満を持たれる方もおられるかも知れません。特に当番医の時は長く待たされたりしますし、この間のもとやま医院では道路が大渋滞して市民からの苦情がだいぶ出たと聞いています。今後、医師会の外来のやり方もあると思うのですが、市民の方も直ぐに診てくれないとカッとして口を荒げる人もいて看護師もストレスになるんですね。私に対応すれば一言も文句を言われずに帰っていかれるんですが、かなりスタッフも疲弊しているというのが現状です。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。先日、県知事の記者会見の時に2次医療、3次医療の救急にかからないでくれと、クリニックがもっと協力してくれというようなことを知事が仰っていましたが、大村市は全く違いますので、ぜひご理解をいただきたいと思います。大村は70数か所のクリニックがありますけれども、そのうち1次医療で40数か所全部コロナ患者を診ていただいて検査をしているので、知事があのような言い方をされていますけれども全く違います。知事にもそのことを報告しました。知事も大村は別格なんですということで、大村はご理解いただいて医師会が協力してもらっている、あれは県全体として他のエリアで医師会に協力してくれるところが少なく、大村市という市立病院や医療センターに直接行って受診する人が多いということを知事が言いましたが、大村は全く違います。そこは本当に田崎先生を始め医師会が全力でご協力いただいていますので、皆さんももしかか聞かれることがあったら言っていただければと思います。出来るところは全部、大村市医師会は協力してくださっていますのでよろしくお願いします。

教育委員 船橋 修一

補足に近いのですが、先ほどのアンケートについて、アンケート調査でこどもセンターの窓口の意見が出てこなくなったからが解決ではないと思います。マイナスの意見もプラスの意見も、そこが関心が高いところだという捉え方をした方が良いと思います。どれだけレベルを上げてても必ずマイナス意見が出てくるし、レベルが上がれば上がるほどマイナス意見はたくさん出てくるんですね。あのアンケートで陥りやすいのは、マイナス意見が出てこなくなったからが解決ではなくて、そこに問題があると思いますので、マイナス意見もプラス意見の方に捉えられると良いと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。

企画政策部長 渡邊 真一郎

他にありませんでしょうか。次回の総合教育会議は意見交換会として11月15日（火）を予定しております。後日、詳細につきましてはご連絡さしあげたいと思います。

これをもちまして令和4年度第2回総合教育会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。